

工事説明書

ガス給湯器

品名

KS-S240SABH

KS-S200SABH

KS-S160SABH

■工事される方へのお願い

- ・この工事説明書の記載内容を外れた設置が原因で生じた故障及び損傷は、保証期間内であっても有料修理になります。
- ・工事終了後、「工事後の点検」のチェックリストに基づいて再確認して下さい。
- ・「試運転」と「お客様への取扱説明」を行って下さい。（お客様からのクレーム防止のため必要です）
- ・工事終了後、取扱説明書(保証書付)の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡して下さい。

工事後の点検

工事が終わったら、チェックリストに基づいて必ず再確認を行って下さい。

● チェックリスト

点検項目	点検内容	参照項	チェック
機器及びその周辺	ガス種	銘板の内容に適合していますか	安全上の注意
	電源(電圧・周波数・消費電力)	銘板の内容に適合していますか	安全上の注意
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか	設置場所の確認+機器の設置基準
	不燃材料以外の材料との離隔距離	基準通り設置されていますか	機器の設置基準
	障害物、窓などとの離隔距離	基準通り設置されていますか	機器の設置基準
	給排気	十分給排気できる場所に設置されていますか	機器の設置基準+機器の設置
安定設置	強固に設置され、がたつきはないですか	機器の設置	
ドレン配管工事	指定された工事がされていますか	ドレン配管工事	
給水・給湯配管工事	給水圧力は十分ですか	給水・給湯配管工事	
	接続は正しく施工され、漏れはありませんか	給水・給湯配管工事	
	保温を完全に行いましたか	給水・給湯配管工事	
	フィルターにゴミなどがついていませんか	試運転	
ガス配管工事	接続は正しく施工され、漏れはありませんか	ガス配管工事	
電気配線工事	指定された工事がされていますか	電気配線工事	
	アース線は確実に接続されていますか	電気配線工事	
試運転	試運転は正常でしたか	試運転	
お客様への説明	取扱説明はしましたか	試運転	
凍結予防処置	凍結予防の処置をしましたか	試運転	



1. 安全上の注意

工事を誤った場合に生じる危害・損害の程度を、次のように区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。



危険

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



一般的な禁止



電源プラグを
抜く



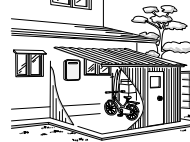
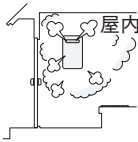
必ずアースを
接続する



必ず行う

危険

- この機器は屋外設置形です。屋内（浴室を含む）への設置は絶対しない。
また、波板囲いなどによって簡易な囲いもしない。一酸化炭素中毒の原因になります。



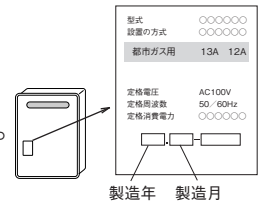
警告

- この工事説明書をよく読み、次の法、基準、指針、条例などに従って設置する。
「建築基準法」「水道法」「下水道法」「電気設備に関する技術基準」「ガス事業法」
「ガス機器の設置基準及び実務指針（日本ガス機器検査協会発行）」「液化石油ガス法」「当該地区の市・町・村火災予防条例」
- 機器の設置・移動及び付帯工事には専門の資格・技術が必要です。
工事は必ずお買い上げの販売店または専門業者に依頼し、有資格者による正しい工事を行う。
- 工事が終わったら、この工事説明書に基づいて設置されていることを確認する。

注意

- 銘板（ラベル）に表示してあるガスの種類（ガスグループ）で使用する。
表示以外のガスを使用すると、不完全燃焼や爆発着火などの原因になります。
- 銘板に記載の電源（電圧・周波数・消費電力）に適しているか確認する。
表示以外の電源で使用すると、火災・感電の原因になります。
- 給湯・シャワー以外には使用しない。機器の故障の原因になります。
- この機器は家庭用機器です。業務用などで長時間使用すると、機器の寿命が極端に短くなります。
- 温泉水、井戸水、地下水は使用しない。
水質によっては、機器内の配管に異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。
この場合は保証期間内でも有料修理になります。
- 機器への給水は水道水を常温で利用する。排熱利用などで温められた水を給水すると、お湯の温度制御ができなくなったり、燃焼しない場合があります。やけどの危険性が高く、また機器の故障の原因になります。
- 太陽熱温水器とは絶対に接続しない。
太陽熱温水器の水温が高くなった時に、お湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。
やけどの危険性が高く、また機器の故障の原因になります。
- 車両・船舶への設置はしない。
思わぬ事故や機器の故障の原因になります。

(12A,13A の場合)



2. 設置場所の確認

⚠ 注意

- ・ 設置場所を決めるときは、お客様とよく相談する。
- ・ 設置場所によっては、近隣の家と騒音・排気ガスの熱風によるトラブルが生じることがあるので、十分配慮して設置する。
- ・ 建物の設計段階から、設置方法や配管・配線工事方法などに関し、十分打ち合わせをしておく。
- ・ 機器を設置する場合、1階設置では有効打ち込み長さ（木下地）12mm以上、2階以上では有効打ち込み長さ（木下地）15mm以上に木ネジ固定が必要です。
- ・ 周囲に障害物がなく、空気が流れが停滞することのない場所に設置する。不完全燃焼の原因になります。
- ・ 引火性危険物（ガソリン・ベンジン・接着剤など）取り扱い場所または腐食性ガス（アンモニア・塩素・イオウ・エチレン化合物・酸類）の発生する場所には設置しない。故障や火災の原因になります。
- ・ 階段・避難口の付近に設置する場合は、避難の支障とならない位置、状態に設置する。思わぬ事故の原因になります。
- ・ ガスメーター・ガス配管・ガス容器などの点検に支障のない場所に設置する。
- ・ 機器取り付け場所の排水状況を確認し、機器が冠水しないように設置する。
- ・ 機器の排気が直接建物の外壁や窓、ガラス（特に網入り板ガラス）、網戸、アルミサッシ、動植物などにあたらないように設置するか排気方向を変更する。外壁やアルミサッシの変色、ガラスが割れる、動植物への悪影響などの原因になります。

- ・ 換気扇・レンジフード・エアコンなどからの風が、機器の給排気に影響を与える場所に設置しない。不完全燃焼の原因になります。
- ・ 高所の外壁に機器を設置する場合は、機器正面でメンテナンス作業ができ、手すりなどの落下防止の措置のある場所に設置する。作業ができない場合は、メンテナンスをお断りすることがあります。
- ・ 砂や綿など、ほこりのたちやすい場所には設置しない。ほこりが給気口をふさいだり、ファンモーターの性能を低下させ、不完全燃焼の原因になります。
- ・ 塩害が考えられる地域（海に近く潮風が当たりやすい地域）では、機器本体の設置は建物の風下にする。やむを得ず海岸面に設置する場合でも、防風板を設けるなどで、直接潮風が当たらないようにする。また、水はけの良いところに設置する。据置設置では、泥などが直接つかないように土台を少し高くする。
- ・ 公共の通路などに近接して設置する場合は、やけどや落下物・投棄物などによる障害及びいたずら操作を防止するよう配慮して設置する。

3. 機器の設置基準

⚠ 注意

防火上の措置

- 「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物などの部分」とは、下記の離隔距離をとる

※ 離隔距離の寸法などの基準は、各地方自治体により異なることがあります。

※ 機器を設置する場合は周囲との離隔距離は、以下の「①機器本体周囲の離隔距離」

「②排気吹き出し口周囲の離隔距離」の両方を満足するように設置する。

① 機器本体周囲の離隔距離

右図の離隔距離をとる。ただし（ ）内は、「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との離隔距離です。

注1.防火性能評定品（機器にラベルで寸法表示あり）のみ。

② 排気吹き出し口周囲の離隔距離

下図の離隔距離をとる。ただし（ ）内は、防熱板及び「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との離隔距離です。

注2.排気ガスが壁面ではね返り、機器が燃焼不良を発生する場合があります。

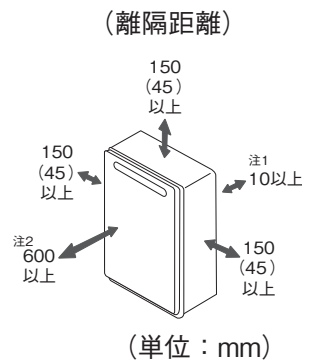
また、機器の点検・修理のためにも、機器前方は600mm以上の空間を設ける。

「←」は排気吹き出し方向を示します。

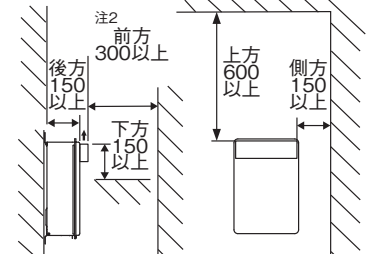
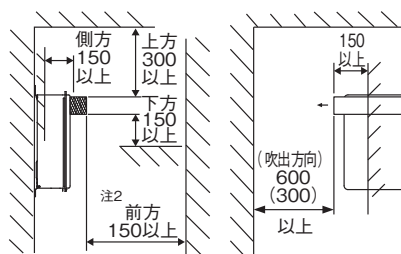
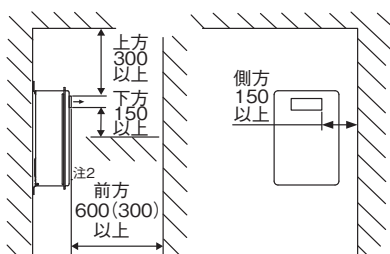
・ 標準設置形の場合

・ 標準設置形に排気カバー（側方）を取り付けた場合

・ 標準設置形に排気カバー（上方）を取り付けた場合



(単位: mm)



③ 排気吹き出し口と建物開口部との離隔距離

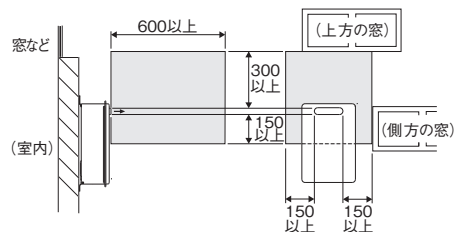
機器の排気口から、下記寸法を壁面に投影した範囲内に燃焼排ガスが室内に流入する恐れのある開口部がないこと。
ただし、排気口から 600mm 以上離れた部分は除きます。

※換気扇の排出部、熱交換形換気扇の給気口は、燃焼排ガスが流入する恐れのある開口部にあたりません。

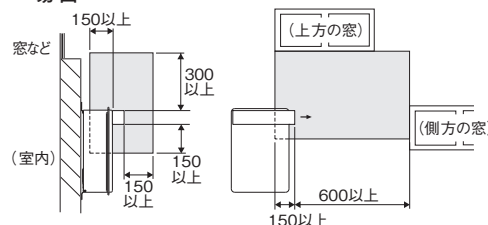
「←」は排気吹き出し方向を示します。

(単位：mm)

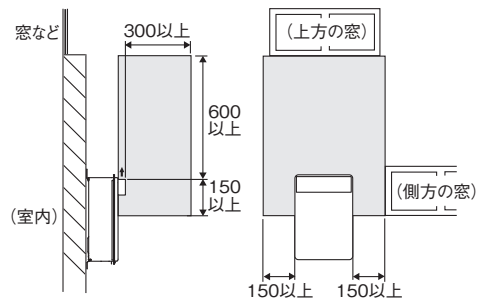
・標準設置形の場合



・標準設置形に排気カバー（側方）を取り付けた場合



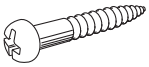

・標準設置形に排気カバー（上方）を取り付けた場合



- ・集合住宅の共用片廊下に設置する場合には、1200mm 以上の避難通路を確保する。
また、排気口の下端は床面より 1800mm 以上とする。
- ・設置する高さについては、所轄の消防署などへ確認する。
- ・避難通路となるベランダに設置する場合は、幅 600mm 以上の避難通路を確保する。
- ・2 階壁面など手の届かない所へは設置しない。

4. 付属部品の確認

取り付けの前に確認する。(取扱説明書(保証書付)・本紙除く)

部品名	形状	個数	部品名	形状	個数
木ネジ (φ5.1×32)		5	小ネジ (M5×12)		3

5. 機器の設置

■壁掛設置の場合(据置設置する場合は、据置台の工事説明書を参照する)



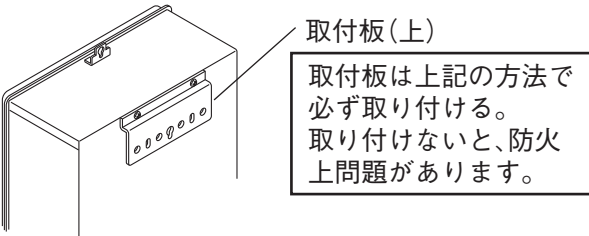
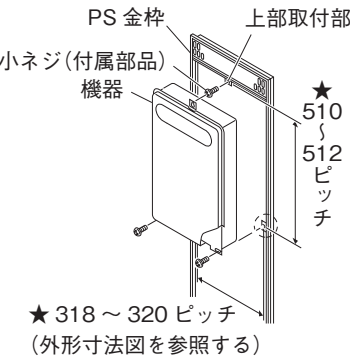
- ・設置する壁には機器の質量が加わり、十分な強度がない場合は振動が伝わることもあるので、補強工事をする。
- ・機器を設置する場合、落下させたり、衝撃を加えたりしない。機器内部の部品が破損することがあり危険です。
- ・必ず垂直な壁に設置して、堅固に固定する。
- ・手袋などで手を保護し、ケガのないように注意する。
- ・穴あけの際は、壁内の電気配線、ガス・水道配管などに注意する。

※イラスト中の付属部品以外の部品については、別売品または現場手配品です。

項目	作業内容	説明図
ネジ穴の位置決め	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木ネジ仮止め用の下穴をあけ、フィッシャープラグ(SX 8×40)を打ち込む。 2. 木ネジを壁面に仮止めして、機器の取付板(上)を木ネジに引っかける。 3. 壁面のネジ穴位置(上下各2カ所)を決め、機器を外す。 	
機器本体の取り付け	<ol style="list-style-type: none"> 4. 壁面のネジ穴位置に、ドリルで下穴をあけてフィッシャープラグ(SX 8×40)を打ち込む。 5. 機器を仮止めの木ネジに再度引っかけ、木ネジ(上下各2本)で固定する。 6. 機器を取り付けたネジから建物内に水が入らないように防水処理をする。 	
機器と造営物	<ul style="list-style-type: none"> ・地震その他の振動または衝撃により転倒したり亀裂または破損がないよう設置する。 ・「電気設備に関する技術基準」により、メタルラス張りやワイヤラス張りなどの造営物に電気機器を取り付ける場合は、機器と造営物とは電氣的に接触しないように施設する必要があるため、図のような施工をする。 	

■ PS (パイプシャフト) 設置の場合

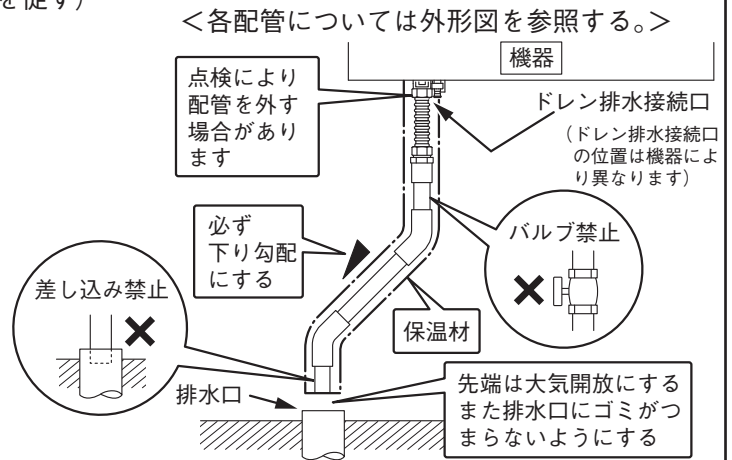
※機器に見合った PS 金枠が必要です。

項目	作業内容	説明図
<p>機器本体の固定</p>	<p>● PS 標準設置の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器のフロントカバーを外さずに設置できます。 PS 金枠上部に小ネジを仮止めして、機器ケース上方の取付穴を小ネジに引っかける。 ※取付板(上)が機器の取り付けの邪魔になるときは機器ケースより外し、下向きに取り付ける。  <ul style="list-style-type: none"> 機器ケースの下部2カ所を小ネジにて PS 金枠に固定、続いて上部の小ネジを締める。 <p>● PS アルコーブ設置する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記と同様に PS 設置したのち、別売の側方排気カバーを取り付ける。 排気カバー取り付けの施工手順は、側方排気カバーに付属の工事説明書を参照する。 	 <p>★ 318 ~ 320 ピッチ (外形寸法図を参照する)</p>

6. ドレン配管工事

(当該地区の指定工事店に依頼し「下水道法」の規定に従う)

- 必ずドレン配管を行う。この機器は潜熱回収型高効率製品のため、燃焼中に「ドレン排水接続口」からドレン水が排出されます。(最大約100cc/min)
- ドレン配管を雨水の系統に流すときは間接排水にする。(トラップは設けない)
- ドレン配管を汚水・雑排水の系統に流すときは間接排水とし、臭気対策としてトラップを必ず設ける。(この場合、長期不在のとき、臭いが出ることもあるので注意を促す)
- ドレン配管は雨水立て管には直接接続しない。(間接接続は可)
- ドレン配管の径は途中で細くしない。ドレン排水接続口は15Aになっています。
- ドレン配管は塩ビ管を使用する。(機器下の配管つなぎ部位のみ、ステンレスフレキ管などを使用しても可。ただし、ドレンが滞留しないように下り勾配とする)
- ドレン配管はできるだけ短くする。
- 配管途中で横引きする場合は、排水口に向かって下り勾配にする。(エルボは45° エルボを使用する)
- 凍結予防のため、地域に応じた保温処置(保温材・保温ヒーターなど)をする。
- ドレン配管にはバルブなどを取り付けない。
- お客様要望により逆流防止装置の動作を確認する必要があるため、ドレン配管は機器との取り外し・取り付けが容易な接続とする。
- ドレン排水接続口(樹脂)とドレン配管の接続箇所はシールテープ、パッキンなどを使用する。その他のシール材には樹脂を侵すものがあります。



日中でも氷点下の日が数日間続く地域では凍結防止用の電気ヒーター★をとりつける。
(★水道配管用10W/mで外気温センサーでON/OFFするものを推奨)

保温材

電気ヒーター
(巻き方はヒーターの説明書参照。ストレート巻きの場合は配管下部にとりつける)

7. 給水・給湯配管工事

(当該地区の指定工事店に依頼し「水道事業条例」の規定に従う)

■ 配管上のご注意

- ・ 配管材料は必ず関係水道局の承認または検査に合格したものを使用する。
- ・ 機器に接続する前に必ず水を流して配管内の切粉・砂・ゴミなどを排出する。
- ・ 接続口にはユニオン継手などを使用し、締め付け時に無理な力をかけない。
- ・ 配管口径は、機器の接続口径以下にしない。
- ・ 銅管を使用の場合、必ずろう付けにて接続する。
- ・ 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はしない。また配管途中に空気溜りのできるような配管はしない。

● 給水配管

- ・ 給水接続口付近に逆止弁と給水元栓または、逆止弁付給水元栓を取り付ける。
- ・ 機器の接続口から逆止弁と給水元弁または逆止弁付給水元栓までは、塩ビ管は使用しない。
- ・ 給湯量を確保など、快適に使用するためには、給水圧力が約0.2～0.5MPa(約2.0～5.0kgf/cm²)は必要です。水圧が低い場合には、機器の能力が十分発揮されず、お客様とのトラブルの原因になるので、加圧ポンプを設置するなどの対策を行う。
- ・ 給水圧力が高い場合は、減圧弁を取り付けるなどのウォーターハンマー防止措置を行う。
- ・ 給水配管と機器を接続する前に、給水元栓を開けて、配管内の切粉、ゴミ、砂などを排出する。
- ・ 給水配管と機器を接続した後、通水テストを必ず行い、給水元栓を閉めてから給水接続口内部のフィルターを取り出し、フィルターを掃除する。

● 給湯配管

- ・ 鉛管や水道用塩ビ管は絶対に使用しない。
- ・ 最短距離になる配管をする。配管が長いと、それだけお湯の出始めが遅くなります。
- ・ 混合水栓及びシャワーヘッドは極力、通水抵抗の少ないものを使用する。
- ・ 階下への給湯は、1フロア下までにする。1フロアをこえて給湯すると、機器内が負圧になりお湯が沸騰する場合があります。

- ・ 階上に配管する場合は、余分に給水圧力が必要になります。(1mにつき0.01MPa(約0.1kgf/cm²)ずつ余分になります)

- ・ 2カ所以上で同時にお湯を使用するときは、配管の方法、特に機器から遠い場所、高い位置の給湯栓ではお湯の出ない場合もあるので、十分検討する。

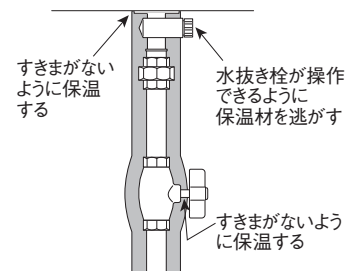
- ・ 樹脂管による配管の場合は、指定されたものを使用する。

● 排水配管

- ・ 過圧防止安全装置から、機器内の膨張水を排出するので、必要に応じて排水処理をする。
- ・ 排水ホースの先端は大気開放とし、水につからないようにする。また、ゴミつまりのないように注意する。

● 凍結予防

- ・ 水漏れがないことを確認し地域に応じた保温処理(保温材、電気ヒーターなど)をする。
- ・ 給水・給湯配管からの水漏れがないことを確認したのち、配管を完全に保温する。
- ・ 給水元栓と給水・給湯接続口の凍結に注意する。
(給水元栓はすきまがないように保温する。給水・給湯接続口は根元まで保温する)(右図参照)
- ・ 配管内の水抜きができるように水抜き栓を保温材で包み込まない。(右図参照)



8. ガス配管工事

(ガスの供給業者の指示に従って施工する)

● ガス栓

- ・ 機器を使用する場所にガス栓がない場合、またはあっても位置や寸法などが適切でない場合には新設・移設または交換などが必要なので、ガス供給業者と相談する。

● ガスメーターについて

- ・ 他の燃焼機器と同時に使用しても、機器に十分ガスが供給できるガスメーターを取り付ける。

● LPガスの容器について

- ・ LPガスの容器は50kg 2本以上を併用する。また、機器から2m以上離して設置する。

● ガス接続について

- ・ ネジ接続のガス配管工事については、有資格者による工事が必要です。
- ・ ガスの配管は金属可とう管またはユニオン、もしくはフレキシブル用Uネジガス栓を取り付ける。金属可とう管またはユニオン使用の場合は、ネジガス栓を必ず取り付ける。
- ・ 配管口径は機器の接続口径以下にしない。
- ・ 機器の接続口に配管するときは、受け工具を必ずスパナがけ部にかける。
- ・ 配管接続後、接続部のガス漏れを調べる。

⚠ 注意

- すべての電気配線工事が完了するまで、機器の電源プラグをコンセントに差し込まない。感電や機器の故障の原因となります。
- 壁掛設置とパイプシャフト設置では接続方法が異なるので、よく確認のうえ工事を行う。
- 機器の電源は、AC100V (50 / 60Hz 共用) です。消費電力は機種及びガス種によって異なるので、銘板で確認のうえ必ずこれに適したコンセントを設ける。



配線上のご注意

- ※落雷の多い地域の場合、コンセントは、機器の電源プラグを屋内でお客様が安全に抜き差しできる場所に設置する。
- 電気配線は、電力会社の指定工事店に依頼する。
- 電気配線はその他の配管、ガスメーター、ガス管などに接触しないように、また機器排気口の放熱などの影響を受けないように配線する。
- 電源コードが余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーなどの機器外にまとめる。機器内に入ると故障の原因となります。
- 「電気設備に関する技術基準」により、漏電したとき自動的に電路を遮断する装置（漏電遮断器）を電源側に設ける。

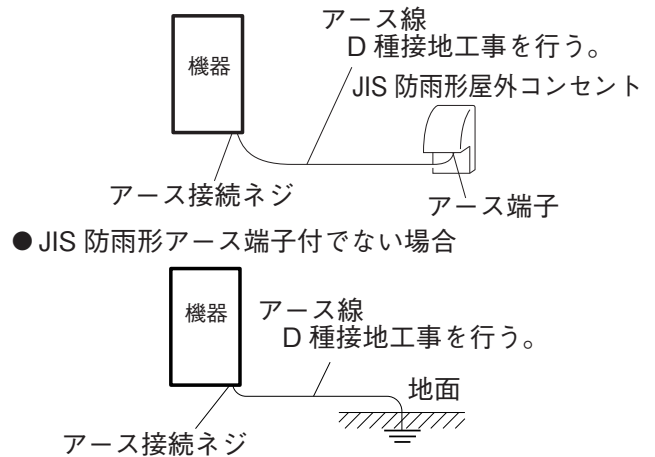
屋外コンセント

- 機器から約 1.5m 以内にコンセントが必要です。
- コンセントは、地上より 300mm 以上で、機器の後ろにならず、排気口の放熱を受けない位置か確認する。
※落雷の多い地域の場合、コンセントは機器の電源プラグを屋内でお客様が安全に抜き差しできる場所に設置する。
- コンセントは JIS 防雨形屋外コンセント（アース端子付き）か確認する。
やむを得ず他のコンセントを使用する場合は、雨線内に設置されているか、適切な防水箱内、または屋内の分電盤を利用できるか確認する。
- コンセントとガス管及び水道管とは、100mm 以上離れているか確認する。
- 電源にタンブラスイッチを使用しない。
タンブラスイッチで電源を切にすると、機器内の凍結予防ヒーターが作動せず、凍結破損の原因になります。

接地（アース）工事

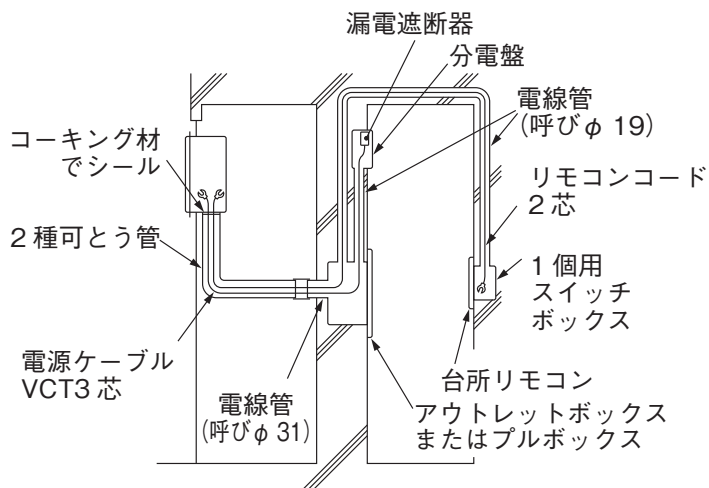


- 万一の感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」による D 種接地工事（接地抵抗 500 Ω 以下）を必ず行う。
※D 種接地工事は法令で規定されています。基準に適合しない場合は、機器の使用停止を命じられる場合があります。
- アース線は、1.6mm (2mm²) 以上の銅線を使用する。
- アース線は、ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路には接続しない。また他の製品のアース回路にも接続しない。
- アース接続ネジは機器の底面にあり、アース表示しています。



■ PS (パイプシャフト) 設置の場合

⚠ 注意



- PS内に機器の電源電線、リモコン配線を行う場合は、「電気設備に関する技術基準」を遵守する。
- PS内は、ケーブル工事をする。

- ケーブル配線は、可とう管で保護する。機器から壁貫通穴まで可とう管で保護する。
- PS内では、電源用ケーブル及び接続電線を切断しない。
- PS内及び内壁面には、配線用ボックスを使用しない。ただし、防爆構造を施したものはこの限りではありません。
- 電線管がPS内壁面を貫通する部分はコーキング材でシールし、PS外との気密が保たれる措置をする。
- 分電盤は、専用回線とする。
- リモコンコードを可とう管に電源ケーブルと同時に納めるには、絶縁電線と同等以上の絶縁効力が必要です。電源ケーブルには600Vビニル絶縁ビニルキャブタイヤケーブル、リモコンコードには600Vビニル絶縁ビニルシースケーブルを使用してください。
- リモコンは、1個用スイッチボックス深型(カバーなし)またはプレキャストコンクリート用スイッチボックスを使用して取り付ける。
- ガス配管とケーブルとは、接触しないようにする。

■ 電源コードをケーブル工事にする場合

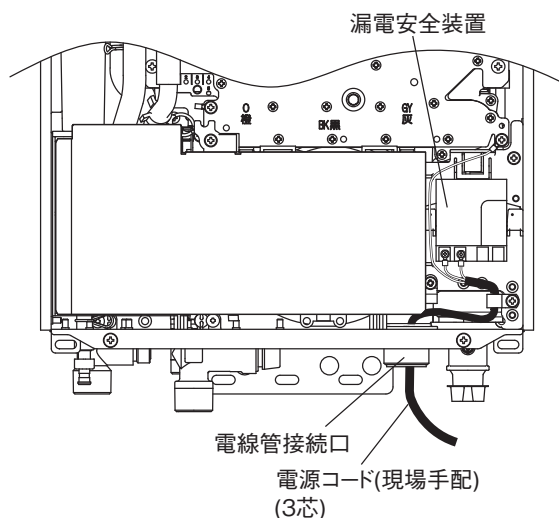
ケーブル工事が必要な場合は、電源コード (VCTの3芯) の交換が必要です。

※ 電源コードが機器の凍結予防ヒーターに接触しないように配線する。

※ 端子台へのネジ止めは必ず手締めで行い、電気ドライバー、インパクトドライバーなどは絶対に使用しない。

端子台が破損する恐れがあります。

1. フロントカバーを取り外す。
2. 漏電安全装置のカバーを取り外す。
3. 電源コード(組み付け品)を取り外す。
4. 電源コード(3芯)を電線管接続口から機器内に差し込む。
5. 電源コードを適当な長さに切断する。
6. 電源コードの先端に丸型端子(現場手配)を取り付けた後、漏電安全装置の電源コード接続端子に接続する。
アース線をアース端子に接続する。
7. 漏電安全装置のカバーを元通りに取り付ける。
8. 電源コードをナイロンクランプで図の位置に固定する。
9. フロントカバーを元通りに取り付ける。

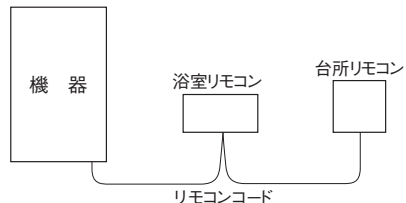
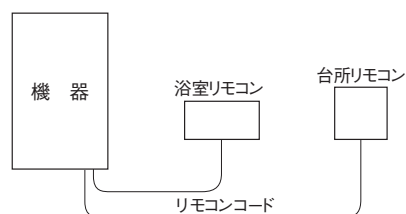


■ リモコンの取り付け

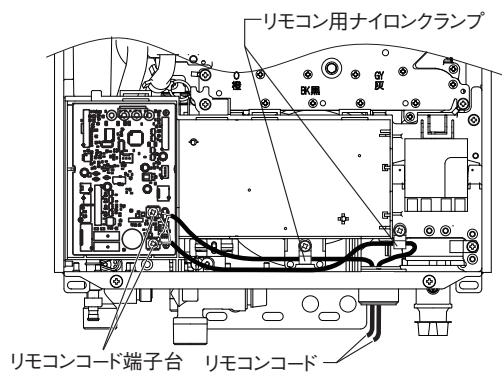
- リモコンの梱包内に付属している説明書により取り付ける。
- この機器はリモコンレス(機器本体のみ)でも使用できます。ただし、その場合お湯の温度は約60°Cの高温(一定)になるので、必ず混合水栓で使用するように促す。
(42°C固定に変更する場合は、機器フロントカバー裏面に入れ付けの結線図ラベルを確認する)
- リモコンは2個まで取り付け可能です。

■リモコンコードと機器との接続

- ・リモコンコードが機器の凍結予防ヒーター及び燃焼機器部分に接触しないように配線する。
- ・リモコンコードが余った場合は機器外でまとめ、機器内には絶対入れない。
- ・リモコンコードは長さ 25m 以内で使用する。25m をこえると、機器の作動不良の原因になります。
- ・コードは 1 つの端子台に 2 本まで共締め可能です。
- ・リモコンコードの Y 型端子は樹脂スリーブ付を使用する。
(スリーブがないものは、銅線が腐食し不良の原因になります)
- ・リモコンコードを途中で中継して、リモコンからリモコンへ配線しない。機器の故障・作動不良の原因になるので、絶対にしない。
- ・1 つのリモコン (リモコン以外の別売品も含む) に対し、1 本のコードを使用する。
- ・端子台へのネジ止めは必ず手締めで行い、電気ドライバー、インパクトドライバーなどは絶対に使用しない。
端子台が破損する恐れがあります。
- ・他の給湯機器のリモコンコードは同一の電線管内に入れない。
機器の故障、作動不良の原因になります。



1. 壁面よりリモコンコードが、リモコンコード端子台へ接続できる十分な長さまで引き出されていることを確認する。
2. 機器のフロントカバーを外す。
3. リモコンコードを電線管接続口から機器内に引き込み、Y型端子をリモコンコード端子台に接続する。
※極性はありません。
4. リモコンコードをクランプで固定する。
5. 元通りフロントカバーを取り付ける。
※フロントカバー取り付けの際は線噛みに注意して取り付ける。



10. 試運転

下記に従い試運転を行い、正常に作動することを確認のうえ、お客様に使用方法を説明して引き渡す。

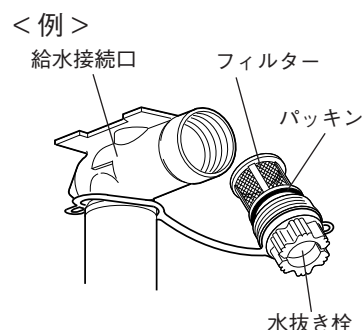
- 準備
 1. 機器のすべての水抜き栓を閉める。
 2. 給水元栓を開き、すべての給湯栓から水が出ることを確認し閉める。
 3. ガス栓を開き、電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンがある場合はリモコンの運転スイッチを「入」にする。(運転ランプが点灯します)
※ 電源投入時、数秒間モーター音がある場合がありますが異常ではありません。(音が止まれば正常です)

- 給湯側
 1. 給湯栓を開き、給湯燃焼表示が点灯し、お湯が出るのを確認する。
(最初は、ガス配管の空気が抜けるまで給湯栓の開(約10秒)・閉(約5秒)操作を繰り返す)
※ リモコンに故障表示「11」がでた場合やお湯にならない場合は、すべての給湯栓を閉めて、もう一度給湯栓を開く。
 2. リモコンがある場合は「温度設定」スイッチを操作して、湯温が変わることを確認する。
確認後、設定温度を40℃に戻しておく。
 3. ドレンがドレン排出配管から排出されることを確認する。
(通常の給湯使用の場合、約15分で排出し始めますが、季節・条件により排水まで長時間かかる場合があります)

- 正常運転しない場合

取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」を参照する。

※ 試運転が終わったら、給水接続口のフィルターにたまったゴミなどを掃除する。
水抜き栓からフィルターが外れた場合は、水抜き栓とフィルターのパッキンをなくさないように注意する。



⚠ 注意

- 試運転終了後の処置

- ・ ガス栓、給水元栓の閉止。
すぐ使用する場合を除き、凍結して機器が破損するのを予防するため、機器に貼り付けてある施工チラシまたは取扱説明書に従って必ず水抜きを行い、ガス栓、給水元栓を閉じる。
(凍結により破損したときの修理は、保証期間内でも有料になります)

■ お客様への取扱説明

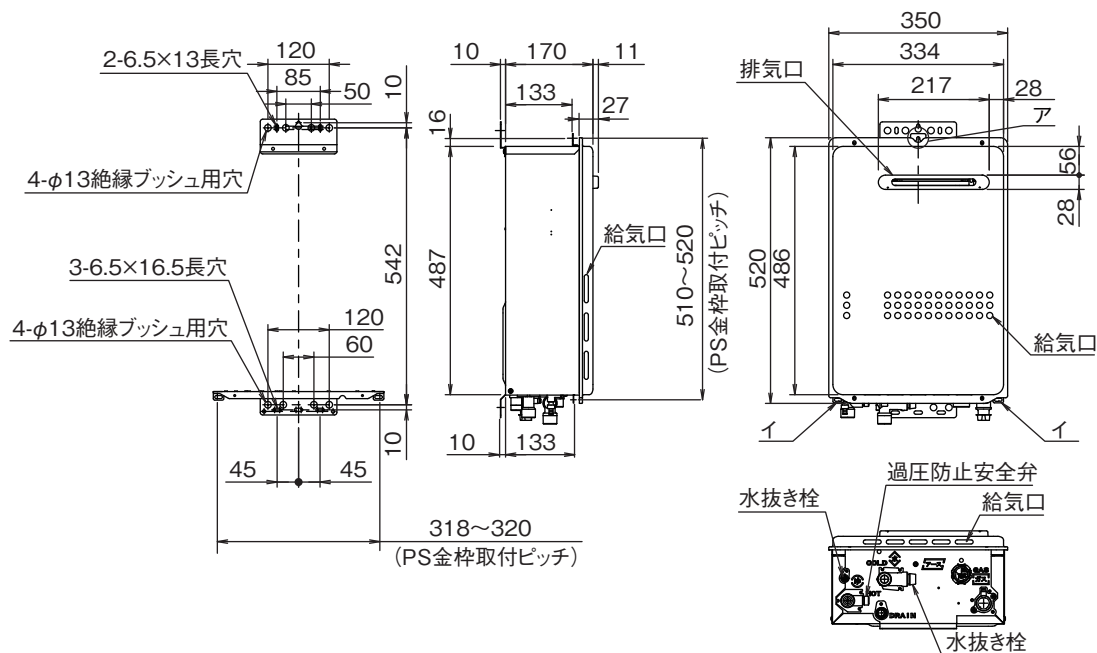
- ・ 取扱説明書に従って「使用方法」を説明する。
特に取扱説明書の「必ずお守りください(安全上の注意)」をよく説明する。
- ・ 保証書に必要事項を記入する。また、取扱説明書の「アフターサービスについて」を説明する。
- ・ 取扱説明書(保証書付)をお客様に渡す。

11. 外形寸法図

●標準設置形

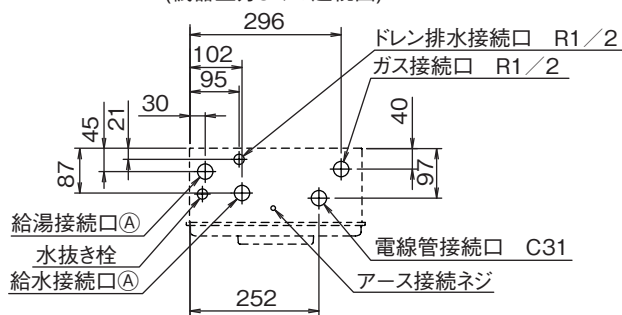
注記 1. PS金枠への取付は、“ア”、“イ”(2ヶ所)の穴を使用する。

(単位：mm)



●各配管位置・接続口径

(機器上方よりの透視図)



	(A)
KS-S240SABH	R3/4
KS-S200SABH	R1/2
KS-S160SABH	R1/2

●底板よりの各配管高さ

ガス	50
給湯	45
給水	58
ドレン	30
電線管	24

